

P01

中四国地域における本音トークアンケート結果 —女性の私生活と仕事に関する調査—

○高橋美保子、東條多恵、中村伸江、桑原さつき、
林 文子、平野慶子、光畑智恵子、仲野道代

女性小児歯科委員会・中四国連絡協議会

平成22年度に新たに設置された女性小児歯科委員会は、女性小児歯科医が生涯にわたり仕事を続け、能力を発揮していくための必要なサポートを模索し、提供していくことを目的としている。今回、女性学会員を対象に「本音トークアンケート」と称して、女性の私生活と仕事に関するアンケート調査を実施した。第一報として、中四国地域のアンケート結果により、現況の把握および問題点を抽出したのでこれを報告する。

日本小児歯科学会の女性学会員から回答のあった69名を対象に分析を行った。都道府県別には、広島県が最も多く、続いて岡山県であった。また、年代別においては、中四国では20歳代からの回答がなく、30歳代が最も多かった。これは、全国的にみても20歳代からのアンケートの回答が最も少ないため、アンケート内容について検討する必要性が考えられた。認定医・専門医に関しては、認定医・専門医が約半数、どちらでもない方が半数であり、これはほぼ全国と比較しても同様であった。しかしながら、これらの認定医・専門医の方の約半数が更新したいが不安を抱えているという結果となった。このことについても、改善策を考えていく必要性が示唆される。また、90%以上の方が結婚しても仕事を続けたいと考えているが、それらのほぼ90%以上の方が、仕事をしながらの出産に不安をかかえているとの回答であった。さらに、出産後も仕事を続けたい方が90%以上である一方、保育所や託児所の確保が難しいといった理由から、復帰することが難しいといった回答もあった。この結果から、情報提供やそれぞれのニーズに合った仕事環境を整える必要があると考えられる。今後は、アンケートの分析を進めることにより、より女性小児歯科医が活躍できるよう検討が必要であると思われる。

P02

摂食・言語聴覚専門外来における医科と小児歯科の連携

○井上梨紗子、三浦 梢、鈴木隆子、林 文子*、
鈴木淳司

すずき歯科小児歯科、*広島県立福山若草園

[目的]摂食嚥下および言語機能は高度に統合された運動であり、それらが障害を受ける原因も中枢性から機能性まで多岐にわたる。さらに機能性障害の原因となる部位も口腔から咽頭／喉頭におよび、これは歯科と耳鼻咽喉科が交差する領域でもある。そのためこれらの機能障害に対して治療効果をあげるためには、医科と歯科が連携して対応することが非常に重要である。当院は開業当初より広島近郊の二つの総合病院の摂食・言語聴覚専門外来と連携し、口腔内に起因する機能障害に対して治療を行ってきた。今回、当院が治療に携わった症例の治療内容などを調査し、今後の治療計画立案に役立てることとした。

[方法]平成22年4月の当院開院以来、摂食嚥下障害および言語機能障害を主訴に総合病院専門外来から紹介された患児について、紹介理由、当院での治療内容、さらにその後の経過を調査した。

[結果]本年6月までの13か月間に22名(男児9名、女児13名)の紹介を受けた。患児の年齢分布は生後11か月から19歳3か月であり、平均年齢は5歳3か月であった。また明らかな全身疾患を有する患児は13名(59%)であった。主訴である紹介理由は摂食嚥下障害が5名、言語機能障害が14名、開口障害が2名、睡眠時無呼吸1名であった。当院で何らかの装置を用いた治療を開始したものは15名で、残りの7名は適切な治療開始時期を待つなどで現在は指導のみを受けていた。治療に用いた装置は上顎舌接触補助床が8症例で最も多かった。治療後の経過を紹介元で確認できた症例では、すべてにおいて一定の治療効果があった。

[考察]総合病院専門外来と一般開業小児歯科との連携治療は摂食嚥下、構音障害に対して非常に有効であることが示された。